

「電子書籍」

流血仮面



キャラクターデザイン、絵本

トマトキッド手塚

監修、ロボット制作

ミステル・タマオ

編著

種子島健吉

あるときは二次元の世界で
またあるときは三次元のリングの中で
「流血仮面」は闘い続ける!!

電子書籍

「流血仮面」

The Bloody Mask

© トマトキッド手塚

Index

Picture Book "The Bloody Mask 01" …… 3

「流血仮面」誕生秘話

原作者

トマトキッド手塚氏インタビュー …… 12

「流血仮面」ロボットプロレスデビューの
きっかけとは？

～ロボレスラー「流血仮面」誕生秘話～

ロボレス団体「できんのか！」代表

ミステル・タマオ総統インタビュー …… 21

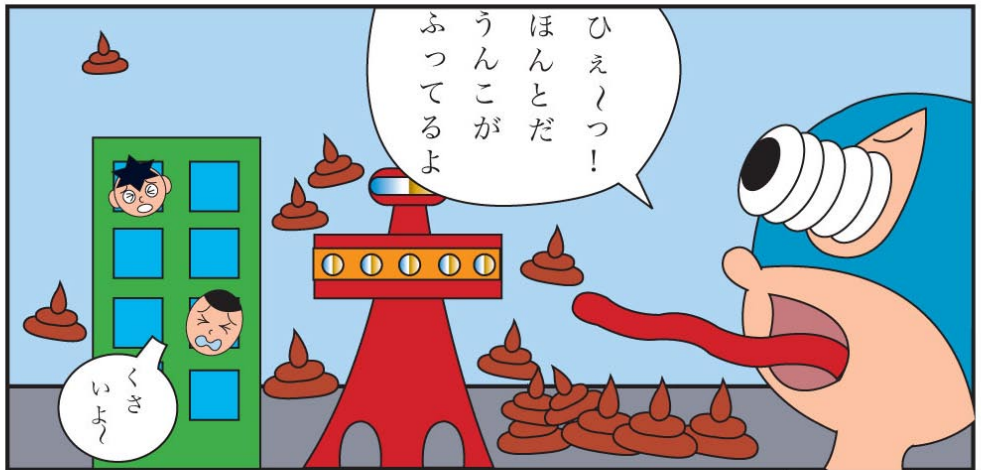
Picture Book "The Bloody Mask 01"



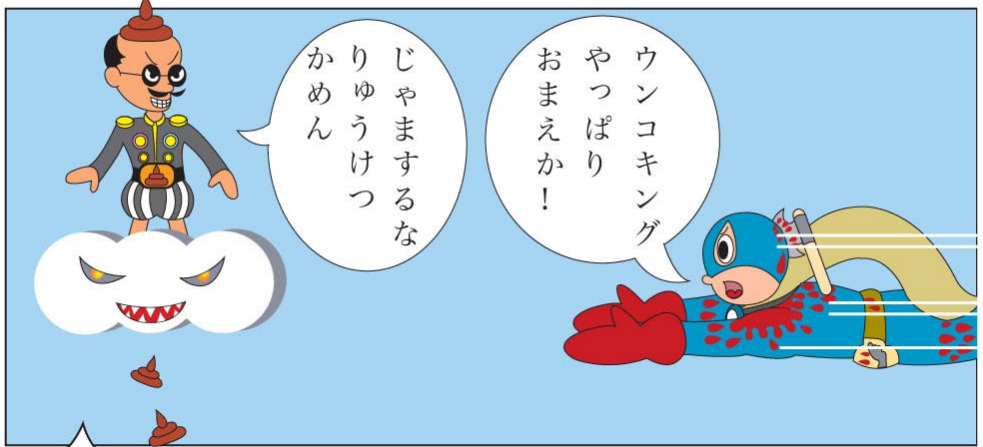
ウンコがそらからふってくる...のまき

UNKO begins to fall from the sky.



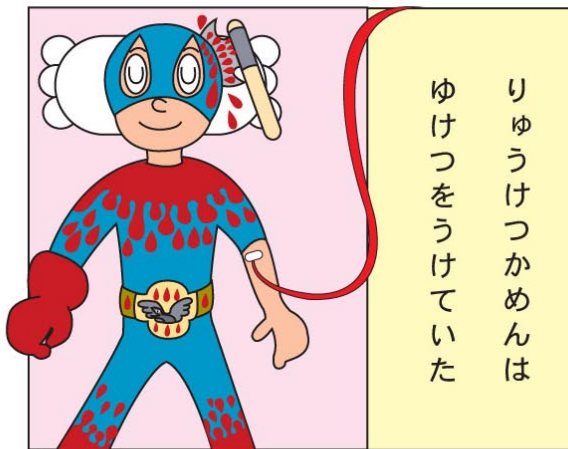
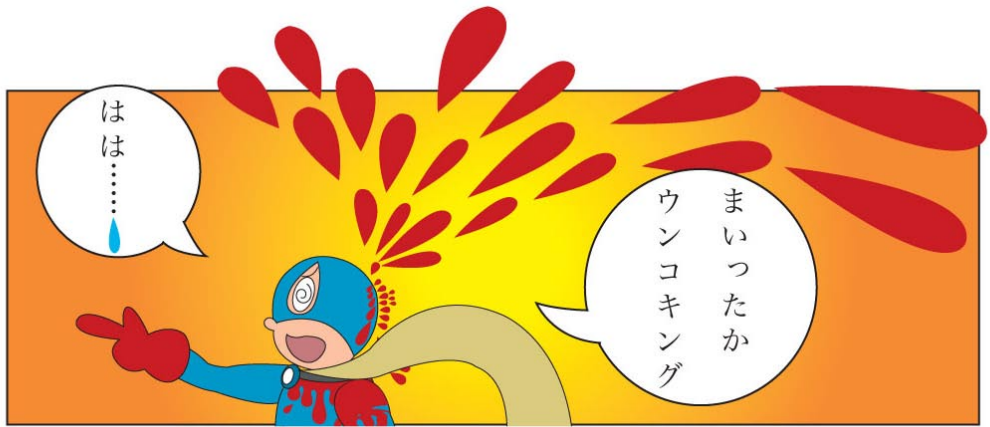


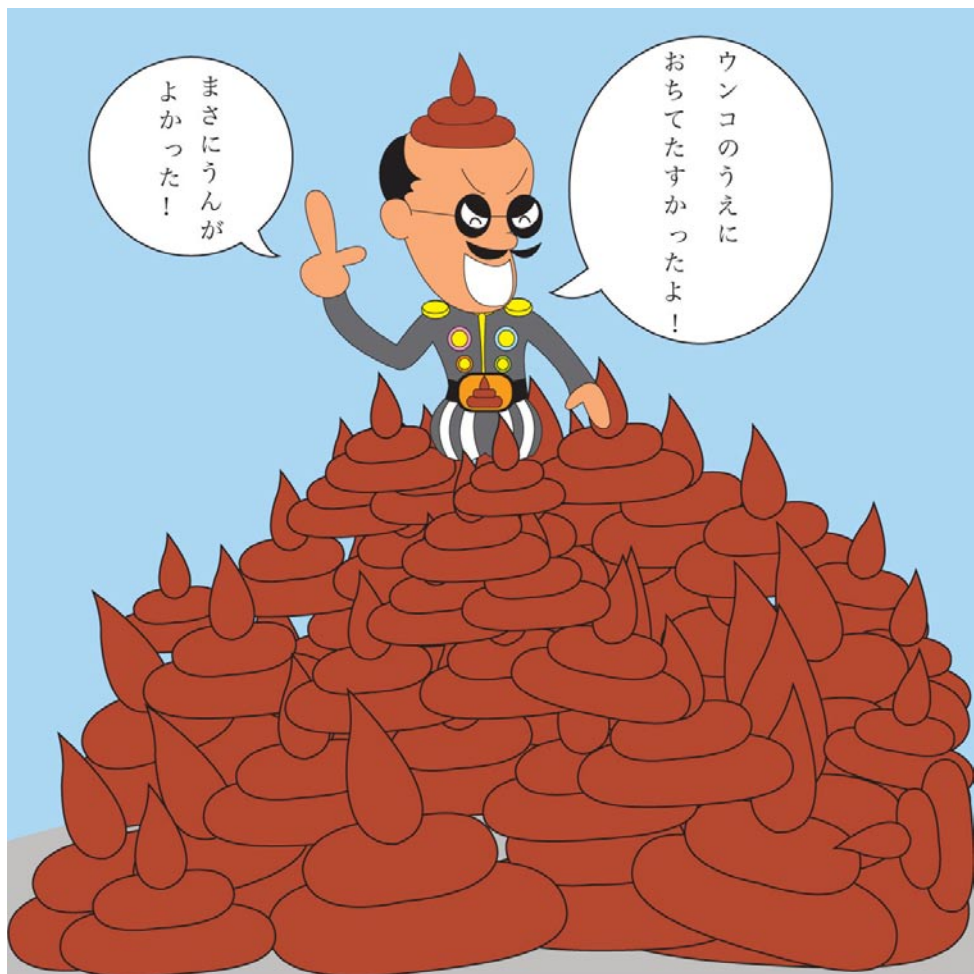












まさにうんが
よかった！

ウンコのうえに
おちてたすかったよ！

「流血仮面」 誕生秘話

～原作者 トマトキッド手塚氏に聞く～

聞き手：種子島健吉（フリーライター）

2013 年で生誕 10 周年を迎えた「流血仮面」。その誕生の経緯を、絵本「流血仮面」の原作者であるトマトキッド手塚氏に聞きました。



それは「白骨船長」から はじまった

種子島 「流血仮面」生誕 10 周年おめでとうございます。それではまず、「流血仮面」がどのように生み出されたのかを教えてくださいませんか。

ちなみにうちの幼稚園に通う娘は「流血仮面」の大ファンですが、「う〇こ」「う〇こ」とニコニコしながら連呼するので、カミサンは困惑気味です。

トマトキッド 「流血仮面」というキャラクターは、1 枚のイラストを描いたところから始まりました。当時の僕は、イラストばかり描いていたんです。

その中で、新しいアイデアとしてコミックテイストのもの……漫画っぽい表現をしたくて、叔父の手塚治虫先生の本、作品集を見たりもしていました。

あ、もちろん手塚治虫先生が叔父というのは冗談ですよ（笑）。

それで、そこにはメジャーな作品に埋もれて、僕が知らなかった作品たちが掲載されていたのです。奇妙なタイトルの漫画がたくさんありましたね。

中でも「漢字四文字」のタイトルが最高でした。特に響いたのは「白骨船長」というタイトルでした。

この「白骨船長」に影響されて「恐そうでおどろおどろしいけど、どこか笑えるようなタイトル」を目指して生まれたのが「流血仮面」なのです。

だから「流血仮面」はヴィジュアルが最初にあったのではなくて、「タイトル」からスタートしたのです。

「恐そうでおどろおどろしいけど、どこか笑えるような

タイトル」から、キャラクターを考えたわけですがこれは意外にすんなりいきました。

以前から、「なんちゃってヒーロー」とか「インチキヒーロー」みたいなモノを描きたいと思っていたので。

「全身コスチュームを着せてしまおう」「マスクもよいな！」「昔の少年漫画の雰囲気っぽい感じがよいな！」等々、次々とアイデアが沸いてきたんです。

はっきりとは覚えていないのですが、頭にオノが刺さっているアイデアも何となくでてきたもの……だったと思います。あまり印象に残っていないということは、そんなに苦労せずにでてきたアイディアだったはずなので。

実際にイラストにするにあたっては、レトロっぽさをだすために、使用する絵の具すべてに黒を混ぜました。これは、昔の印刷された古めの雑誌を見て決めました。

なんか何色にしても「抜けるような綺麗さがないなあ」というふうに見えてしまって……だから、「流血仮面」の青も赤も背景の空も、ちょっとダークな感じなのです。



狙ったのは「バカバカしさ」

種子島 なるほど、すべてはその1枚のイラストから始まったわけですね。ところで、「流血仮面」はいったい何と闘っているのでしょうか？

第1巻ではウンコキングと闘っていたわけですが、実はウンコキングは現代社会の暗部を象徴するキャラクターで、「流血仮面」は「崇高なる目的のために闘っていた！」といった裏設定などがあったりするのでしょうか？

トマトキッド 特にそういった設定はありません。「崇高」とは真逆の「バカバカしさ」といった要素が多分にありますね。

僕自身が、「バカバカしいもの」や「くだらないもの」、そういったモノに惹かれますし、読んでもらって「くだらねえ～!!」とか「ばっかだね～!!」といってもらえたら、作者としては最高の褒め言葉なんです。

僕も最初は「ウルトラマン」や「アンパンマン」などの、最後は正義が勝つストーリーを考えていましたが、「流血仮面」はあくまでもなんちゃってヒーローなので、そこまでしてしまったらやりすぎだし、できないと思いました。

それにそもそも「流血仮面」にそんな話は似合わないんじゃないかと（笑）。

イラストから絵本として展開するようになってからは、毎週「流血仮面会議（通称流血会議）」を当時、「流血仮面」絵本を販売していた、書店オーナー宅でやっていましたが、そのオーナーさんがそういった勧善懲悪ものが大嫌

이었다のも影響しているのかなと思います。

「流血会議」は毎週酒を飲みながらやっていました。とにかく「くだらないこと」を真剣に考えるのに時間を費やしていましたね。

種子島 確かに、ギャグ系のネタやパロディ系の企画を真面目な会議でネタ出ししようというのも無理がありますね。飲み会兼ネタ出し会というのは「流血仮面」にぴったりの形態の気がします。

ところで現在では、絵本だけでなく、キャラクターグッズ展開もしているとうかがいましたが、「流血仮面」グッズにはどのようなものがありますか？ 人気のグッズがあったらそちらも教えてください。

トマトキッド 「流血仮面」グッズは2012年秋の新作としてTシャツ3種類、缶バッチ29種類、ステッカー2種類を制作しました。

以前からの人気商品は、「流血仮面」プロレスマスク、流血頭部型ストラップがあります。マスクもストラップ

も僕の手作りです。

絵本も現在、48巻あります。新作は今のところ考えていませんが……今までの作品をリメイクしたり、アメコミ風で描いてみたりと、気が向いたら新たなバージョンとして発表することもあるかもしれません。

「流血仮面」各グッズは、東京、吉祥寺の架空ストアで販売しています。気になるものがあったら、ぜひいちど見てもらいたいですね。ネット販売もしていますよ。

■流血仮面ホームページ

<http://www.ryuketsu-kamen.jp>

■架空ストア TOMATO KID FACTORY

http://store.retro-biz.com/list_o59.html





ロボレスラー「流血仮面」誕生秘話

～「できんのか！」代表

ミステル・タマオ総統に聞く～

聞き手：種子島健吉（フリーライター）

ロボレスラー「流血仮面」誕生の秘密を「できんのか！」代表で日本語堪能な自称メキシコ出身のマスクマン、ミステル・タマオ総統にうかがいます。



世界でただひとつの ロボットプロレス団体

種子島 では最初に、タマオ総統が代表を務めるロボットプロレス団体「できんのか！」についてうかがいます。どういった活動をされているのでしょうか？

ミステル・タマオ総統（以下、タマオ総統）「できんのか！」は、おそらく世界で唯一のロボットプロレス団体であり、有志により関東地方を中心に活動している。

埼玉県草加市のお祭りには毎年参加して定番の催し物となっているし、今までに山形県、栃木県、静岡県、福

岡山など日本のみならず、アメリカのサンフランシスコでも興行したことがある。

国内外のテレビや雑誌、Web 媒体の取材も数多く受けており、NHKをはじめイギリスのテレビ局から取材を受けたこともあるな。

種子島 自分も、Web 媒体である ITmedia の記事のために取材させてもらったことがあります。その節はありがとうございました。

それでは、絵本のキャラクターだった「流血仮面」がなぜロボレスラーとなり、「できんのか！」に参加することとなったのか、教えていただきたいのですが。

トマトキッド手塚氏との出会い

タマオ総統 それは忘れもしない 2010 年のことだ。その年、二足歩行ロボット競技会「ROBO-ONE (ロボワン)」が新潟で行われた。その「第 18 回 ROBO-ONE in 新発田」があったので鮮明に覚えているのだが、5 月の「デザインフェスタ」でトマトキッド手塚氏との運命的な出会い

があったのだ。

種子島 オリジナルデザインを持ち寄るのが趣旨のアーティストイベント「デザインフェスタ」というと、そこにアーティストの手塚氏が出展しているのはわかるのですが、タマオ総統はなぜ足を運んだのでしょうか？ あまり結びつきを感じないのですが……。

タマオ総統 それは素人の浅はかさだな。プロレスはマスクやコスチュームなど、それぞれのレスラーが意匠を凝らした独自の世界が展開するアーティストィックなものなのだ。

私もかねてより「デザインフェスタ」には注目していて、そのときもプロレスのオリジナルマスクの出展がないか探しに行っていた。

ちょうど「できんのか！」の看板ロボレスラーの1人(1体)である「くまたろう」の相手を張れるほど、強いキャラのロボレスラーが作れないかと考えていた時期でもあった。



ロボットプロレス「できんのか！」に参戦している「くまたろう」。かわいらしいクマの縫いぐるみのような容姿を持ちつつも、アクの強いキャラクターという意外性が魅力。腰に爆弾をかかえており、何度も引退しながらもリングに戻っている不死身の男（雄）だ。

種子島 なるほど。「強いロボレスラー」ではなく、「キャラの強いロボレスラー」を、というのが、ロボット格闘競技大会ではなくロボレスエンタテインメントを標榜する「できんのか！」らしいところですね。

「デザインフェスタ」で手塚氏に出会って、その場でぜひ「流血仮面」を「できんのか！」にというオファーをしたということですね！

タマオ総統 いや。「デザインフェスタ」で手塚氏が「流血仮面」のオリジナルマスクを出展していたのを見た私は、プロレス談義をかれこれ1時間近く立ち話しして、意気投合したのだが、特に具体的な話にはならなかったな。

あのときは、大日本(プロレス)の話で大いに盛り上がってだな。

種子島 え？

タマオ総統 や、もちろん。名刺交換はしたぞ。名刺交換は。

種子島 はあ。

「くまたろう」を持参して制作依頼

タマオ総統 それでまあ。こちらとしては、さっそくメールせねばと思っていたのだが、なんと手塚氏のほうからメールをいただいたのだ。

種子島 ほう、手塚氏のほうから「できんのか！」に興味があると連絡があったわけですね。

タマオ総統 そうなのだ。先ほどもいったとおり、私ももちろん連絡しようと思っていたのだが、それよりも先にとということだな。「できんのか！」で何かやりましょう、といったときに、受け身ではなく、相手から進んでアクションをしてくれるというのは、なかなかないことなので、あれには感激したものだ。

それで、ひっきーに頼んで、あ、ひっきーというのはだな、「くまたろう」の制作者でありオペレーターなのだが、そのひっきーに頼んで、「くまたろう」を借り、手塚氏との打ち合わせの現場に持って行ったのだ。

種子島 いきなり「くまたろう」ですか、それはインパクトあったでしょうね。

タマオ総統 それが見せたところ、以外にクールな反応だったな。「これですか」的な。

種子島 あれ？ そんなもんなんでしょうか。

タマオ総統 ま、それが、電源を入れていない状態ではそういう反応だったのだが、動かして見せたところ、「おお！ すごいですね！ こんなに動くんですか!!」となってだな。

後はもう、「ぜひ『流血仮面』を『できんのか!』のリングへ!」「ぜひコスチュームの制作を!」と協力要請したら、「おもしろそうですね。やってみましょうか!」という具合に話が進んで、とんとん拍子だったのだ。

「材料費しか提供できないのだから……」という無茶なお願いだったにも関わらず、快諾してくれたのには感謝のしようがないのだが。

種子島 大企業が作る等身大口ロボットが、二足歩行で歩いたりするのは皆さんテレビで観て知っています。

でも、個人が作った小さなロボットが複雑な動きをするのを目の当たりにすると、見たことがない人はビックリしますよね。

自分も最初に「できんのか！」というロボットプロレスがあるよ、と紹介されたとき、どんなパフォーマンスをするのか見当もつかなかったですし。

タマオ総統 そうだな。それもあるが、やはり「プロレスへの愛」だと思うな。「デザインフェスタ」で意気投合したときから感じていたのだが、氏と私とで共通していたのは「プロレスへの愛」なのだ。

だから私は最初から手塚氏のことは信頼していた、「プロレスを愛する者に悪い者はいない」というしな。

「流血仮面」デビューは、ROBO-ONE

種子島 はあ。なるほど……。いろんな意味で信頼関係ができていたということですね。実際に「流血仮面」が「できんのか！」でデビューするまで、というのはどうだったのでしょうか？

タマオ総統 実は「流血仮面」がデビューしたのは、「できんのか！」のリングではなく、二足歩行ロボット格闘競技大会 ROBO-ONE なのだ。

「流血仮面」コスチューム依頼から、完成までだいたい3か月を要したのだが、完成したのがちょうど最初に話した「第18回 ROBO-ONE in 新発田」の前だった。

そこで、私は「流血仮面」で ROBO-ONE にエントリーすることにした。

その際、本戦で当たったのが、今では「できんのか！」に欠かすことのできない看板ロボレスラーの1人(1体)、「ガルー」だったのだが、これが「流血仮面」には、運命の一戦となったのだ(「できんのか！」では、毎回、「悪

い悪いと言いつつ、実はこれといって悪いことをしたことがない」とリングアナにつっこまれる、極悪非道のヒーロー「ワルー」として「ガルー」は参戦している)。

種子島 厳しいレギュレーションとルールがモットーの格闘競技大会、ガチンコのロボットの闘いの場で、「ロボレス」してしまったわけですね……。

タマオ総統 もちろん、「流血仮面」は ROBO-ONE のレギュレーションに沿った仕様だったし、ルールに則った闘いをした。まあ、わざとらしいタイムをとったときは、運営サイドから疑いの眼差しで見られもしたが (笑)。

おかげで、「流血仮面」は敗退したが、最後はジャーマンスープレックスで決めるという、「できんのか！」での「流血仮面 VS ワルー」という対戦フォーマットができたのだ。

やはり、プロレスに必殺技とお決まりの展開というのは定番中の定番だからな。

まあ、もともと「ガルー」は優勝候補の 1 体で、まと

もに闘って勝てる相手ではなかったのは誰の目にも明らかだったし、負けて得たもののほうが大きかったということだ。

私としても「ガルー」戦の前までは、「流血仮面」はよくできたコスチュームをまとったロボットにすぎなかったのだが、ロボレスラー「流血仮面」というキャラクターができあがったのはあの瞬間だったと思うな。

あの、ジャーマンスープレックスで ROBO-ONE のマットに沈んだ瞬間が、ロボレスラー「流血仮面」誕生の瞬間だったと……。

あの一戦以来、ROBO-ONE で「流血仮面」が登場すると、「いったい今回はどんな負け方をするんだ!？」という注目のされた方をされるようになっているしな。

2012年のエキシビジョンマッチで、「ロボティクスノーツ」チームとの対戦ロボに「流血仮面」が選ばれたのも、そういったキャラクターがあればこそだと思っている。

生みの親、制作者としての感動

種子島 手塚さんも、ロボレスラー「流血仮面」デビュー戦を観戦されたのでしょうか？

タマオ総統 残念ながら手塚氏は、新潟まで観戦に来ることができなかったのだが、後でムービーを観て「2つの意味で感動した」そうだ。

これはまず「絵本作家、キャラクター生みの親としてキャラクターが実際に動いているのを見た」という感動と、「作ったコスチュームで『流血仮面』が問題なくパフォーマンスできたうえ、思った以上にリングで映えて大成功だった」というコスチューム制作者としての感動とで、2重だったという意味だ。

衣装に青のラメを選んだというのも、目立つし、キラキラ輝いていて存在感があったしで効果的だったと分析していたな。

確かに大会やイベントで、ロボットの集合写真を撮っても、一目で「流血仮面」がどこにいるかわかる。後は、

見た目がどこかユーモラスで可愛らしく仕上がったのは、手塚氏としては特に意識してのことではなかったのだそう。

「流血仮面」のファイトスタイルや動きと合っていて、私は非常に気に入っている部分なのだが。

種子島 偶然の出会いから生まれたこのコラボレーションは、関係者が思った以上の大成功だったということですね。

タマオ総統 その通りだ。私も、手塚氏が「感動した」と聞いて、コラボレーションしてもらって本当によかったと思ったものだ。

もちろん、観客の皆さんにも大好評で、「できんのか！」の興行に確かな手応えを感じることができるようになったのも、この頃からということもあるし、そういった意味でも本当によかったと思うな。

受け身モーションの秘密

種子島 いま「流血仮面」の見た目の話しがありました、受け身モーションのお話しはどうでしょう。

以前、「プロレスもロボレスも技を出す側だけでなく、受ける側が大事なところはいっしょだ」という話をされていたと思うのですが、デビュー戦ですでに「流血仮面」に受け身モーションが組み込まれていたのでしょうか？

タマオ総統 それには、とっておきのエピソードがあるのだ。

「できんのか！」参戦ロボレスラー「サンダーボルト」の制作者である、自称日系カナダ人のDJ柴田。

彼は「流血仮面」で使っている近藤科学製ロボットキット KHR-3 シリーズのモーションを作らせたら右に出る者はないといわれているぐらいの技術を持つ男なのだが、彼が同宿だったのをよいことに、徹夜で「流血仮面」のやられモーションをプログラミングしてもらったのだ。

種子島 徹夜でですか？ DJ柴田氏も気合いが入ってい

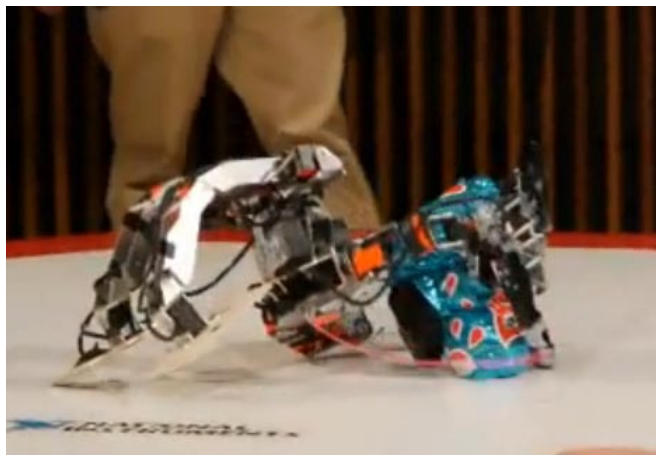
ますね。

タマオ総統 彼もプロレスが好きなのは知っていたし、KHR-3 シリーズで「俺がやらねば誰がやる！」という自負もあったのだと思う。

ただ、のちに周囲で見ていた人間に聞くと「あのときのタマオ総統はヒドかった」「あのときのタマオ総統は鬼のようだった」ということだ (笑)。

まあ、技を受けた際の足の角度など、私なりの「受け身の美学」を追求するため、細かいところでさんざんダメ出しをしたので徹夜になってしまったのだが……。

おかげでロボットファンだけでなく、プロレスファンをも唸らせることができた、あのジャーマンスープレックスが実現したわけだし、その後も DJ 柴田との関係は良好だから、結果オーライだと思うぞ。



2009年8月29日に新潟県新発田市で行われた、第18回 ROBO-ONE での「流血仮面 VS ガルー」。ワルーのジャーマンスプレックスが、流血仮面に炸裂した瞬間。

受け身でなく、原作者から意見も

種子島 「流血仮面」デビューが ROBO-ONE というのは意外でした。先ほど「よくできたコスチューム」という言葉がありましたが、「流血仮面」の完成されたデザイン、ストーリー性のあるキャラクターという以外にも、コスチュームの作りなどで、優れた部分が見られたということですか？

タマオ総統 ロボット用のコスチュームを作ったことがないと解らない部分かもしれないが、コスチュームに伸

縮性のある素材が使われていたのだ。これは私のほうから指定した仕様ではなく、すべて手塚氏の工夫によるものだ。おそらくプロレスのマスクなどを制作しているの発想だと思うのだが、ロボットビルダーにはそういった発想はない。「流血仮面」のコスチュームをはじめて見るとだいたいそこで、ビックリされるな。

ほかにも外装がどうしても大きくなりがちの頭部も、小学生が被る紅白帽のようにゴムをアゴにかけて固定するシンプルな構造になっていてコンパクトにまとめてあったりと、随所に着せやすさと関節の可動域を損なわない工夫がなされているのだ。

私は当初、キャラクター性を優先して「マントは欲しい！」と主張していたのだが、「マントがあるとプロレス技の邪魔になる」という手塚氏の意見を尊重して、マントはなしになった。これは実際闘ってみると、まさに氏のいうとおりで、今でもマントなしで正解だったと思っている。

そういった受け身ではなく、やる気満々で意見まで出してくれ、制作に当たってくれたのが何よりうれしかった。

たな。後から思えば、探してもなかなか見つからない、「二足歩行ロボットのコスチュームを作ってもらなら、この人しかいない」という、センスと技術を持ったアーティストに幸運にも巡り逢い、幸運にも「流血仮面」をロボレスラーとする許可がもらえ、幸運にもコスチュームを制作してもらえたということになる。これはもう、運命としかいいようがないな。

今から思えば、あのとき、私が夢見たロボレスラー「流血仮面」がリングで闘う姿を、手塚氏も夢見ていた。いちプロレスファンとして、「立体化した『流血仮面』が実際に動くところが見たい！」という同じ夢を見ていてくれたのだと思うな。

「流血 48」計画進行中

種子島 ところで、「流血仮面」に近藤科学のロボットキット、KHR-3 シリーズを使っているのはなぜですか？

ほかの「できんのか！」参戦レスラーは、オペレーターが自ら設計して組み立てたオリジナル機体がほとんどだと思っております。

タマオ総統 確かに、いちから設計したオリジナル機体であれば、よりダイナミックなパフォーマンスができるかもしれない。

しかし、それは他のロボレスラーにまかせている。「流血仮面」には「流血48」計画という、崇高なるミッションがあるからだ。

種子島 「流血48」計画ですか？ 某アイドルグループを連想させますね……。

タマオ総統 「流血48」のコンセプトも、会いに行けるロボットを実現するというもので、まさにAKBだからな。

重要なのは、その実現方法だ。KHR-3シリーズを持っている有志にコスチュームとモーションプログラムを提供する。

それによって、「できんのか！」が拠点としている関東地方以外の、興行をなかなかすることができない場所。そんな場所でも、ロボレスラー「流血仮面」のパフォーマンスを披露することができるようになるというものな

のだ。

種子島 コスチューム、モーションプログラムを流用可能とするための KHR-3 シリーズ採用ということなんですね。

タマオ総統 現在進行中のプロジェクトだが、すでに埼玉県（赤）、東京都（ピンク、白）、岐阜県（紫）、福岡県（ホークス）、カナダ（黄）に有志がいて、今後、神奈川県にも増える予定がある。「流血 48」ネットワークはどんどん広がっているぞ。

「できんのか！」は格闘技ではなく、ロボレスエンタテインメントを標榜している。技のひとつひとつがモーションを磨き上げた、観客の皆さんにすごいと思ってもらえるものなのはもちろんのこと、格闘技に興味がない女性やお子さんにも楽しめるように個々のロボレスラーのキャラクター性、ストーリー性を重視している。

まずは、公式 YouTube チャンネルのムービーを観てもらって「できんのか！」を知ってもらい。実際に会場に足を運んで生の闘いを観てもらいたい。

ロボットの激突する音やプロのリングアナウンサーによる実況、実際のプロレスで使われているのと同じゴングなど、あのライブ感を体感してもらえれば「できんのか！」の虜になること請け合いだ。

今後の興行の予定は、「できんのか！」公式ホームページをご覧ください。

■ロボットプロレス「できんのか！」公式チャンネル

<https://www.youtube.com/user/atamo21>

■ロボットプロレス「できんのか！」公式ホームページ

<http://www.ryuketsu-kamen.jp/robot>



[電子書籍]

「流血仮面」

The Bloody Mask

2014年8月24日 DLmarket版 (Ver1.0) 発行

2016年11月5日 無料配布版 (Ver1.0) 発行

トマトキッド手塚：キャラクターデザイン、絵本

ミステル・タマオ：監修、ロボット制作

種子島健吉：編著

「流血仮面」は、トマトキッド手塚氏によるオリジナルキャラクターです。すべての画像、イラストは、手塚氏の許可を得て掲載しています。ロボットプロレス「できんのか!」に関する画像は、ロボットプロレス「できんのか!」の許可を得て掲載しています。権利者の許可なく本書を転載、配布することはご遠慮ください。